

バスター・キートンの 華麗なる一族 (1922)

MY WIFE'S RELATIONS

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 20分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

パン生地を練っていたキートンは伸びたそいつで縄とびを始め、ちょうどやって来た郵便屋に絡みつけて甚大な被害を与えた。彼の落した一通の封筒を台無しにして引っ込みつかないキートンはそれを懐に……。その騒ぎが飛び火して、おっかない行かず後家の部屋の窓ガラスを割ってしまったキートンは判事の元に連れて行かれるが、この判事、ポーランド語しか話せず(!)、先に予約してきた結婚するカップルと彼らを勘違い。どさくさに結婚の誓約を交わしてしまったキートンは、彼女の実家に連れていかれる。そこは父をはじめ四人のむくつけき兄たちが住む男所帯。全員に小突き回される荒っぽい歓迎を受け、マッチョな品定めをされ、夕食の卓に着くと、今度は座りながらもすっかり給仕役で、自分は食事にありつけないキートン(珈琲に砂糖を何ヶも入れる兄に呆れて、逆に砂糖つぽに珈琲を入れてやり、感謝されるのがおかしい)。だが、やがて、内ポケットの手紙を女に発見され、一家の態度は豹変する。それは莫大な財産相続の伝聞だったのである。急に、蝶よ、花よーの扱いになり、一家は結婚お披露目のパーティを催してくれた。振舞われるのは、新婦ご自慢の密造ビール。そこに入れるよう頼まれたイースト菌を、キートンは間違えて入れて、宴もたけなわの時、屋敷中が泡だらけに。と、手紙の宛先が彼でないことも発覚し、一族郎党、彼をこらしめようと血眼になるが……。その突拍子もない“きっかけ”のシュールさが、後のマルクス兄弟のギャグを想わず、キートンの初期短篇の傑作。蚊とんぼのようにか細いキートンが、暴力にも近い、荒くれ男たちの食事風景に圧倒される様が妙におかしい。

【クレジット】

監督 バスター・キートン Buster Keaton

脚本 バスター・キートン Buster Keaton

出演 バスター・キートン Buster Keaton

ケイト・ブライス

モンティ・コリンズ